

JAグループ広島営農通信

今回紹介する内容

■ 米穀情報

米穀情勢 平成30年産、31年産米の主食用米等の需給見通しについて
JAグループ広島による米穀事業の取り組みについて
中食・外食実需者との長期契約取引拡大の取り組みについて
ひろしま米の広報・PR活動について

■ 園芸情報

園芸情勢 青果物の販売経過および情勢見通しについて
園芸関係イベント・広報活動情報について
園芸資材情報について

■ 営農情報（肥料・農薬情報）

平成30年産米の収量・品質からみた高温障害対策について
担い手に情報発信！JAグループ広島アグリサミットの開催結果について

■ 農機情報

農業機械大展示会の開催について（ご案内）



お問合せ先は下記までお願いします

営農支援室（電話 082-847-4706）

改革推進課（電話 082-847-4701）

1. 平成30/31年及び平成31/32年の主食用米等の需給見通しについて

農水省が12月10日に発表した平成30年産水稻の全国の作況指数は98の「やや不良」となりました。また、平成30年産水稻の作付面積（子実用）は147万haで前年比4千haの増加となり、主食用米の予想収穫量は732万7千トン、前年比2万1千トンの増加が見込まれています。

また、11月に公表された国の需給見通しでは、平成31年産における主食用米等生産量見通しを718万～726万トンと発表しました。人口減少による影響をより強く反映させ需要量を推計する方法に見直し、年間の需要減ペースが従来の8万トンから10万トン程度へ拡大することを前提とした内容となりました。

○平成30/31年の主食用米等の需給見通し

単位：万トン

平成30年6月末民間在庫量	A	190
平成30年産主食用米等生産量	B	733
平成30/31年主食用米等供給量計	$C = A + B$	923
平成30/31年主食用米等需要量	D	735
平成31年6月末民間在庫量	$E = C - D$	188

○平成31/32年の主食用米等の需給見通し

単位：万トン

平成31年6月末民間在庫量	A	188
平成31年産主食用米等生産量	B	718～726
平成31/32年主食用米等供給量計	$C = A + B$	906～914
平成31/32年主食用米等需要量	D	726
平成32年6月末民間在庫量	$E = C - D$	180～188

一方、広島県の水稲作付面積は前年産に比べ355ha減少、過去5年間では1,760haもの面積が減少するなど不作付地が拡大しています。広島県においては主食用米需要量が生産量を大きく上回っており、地産地消による県産米を求める消費者、実需者への安定供給が困難となる事態が生じています。

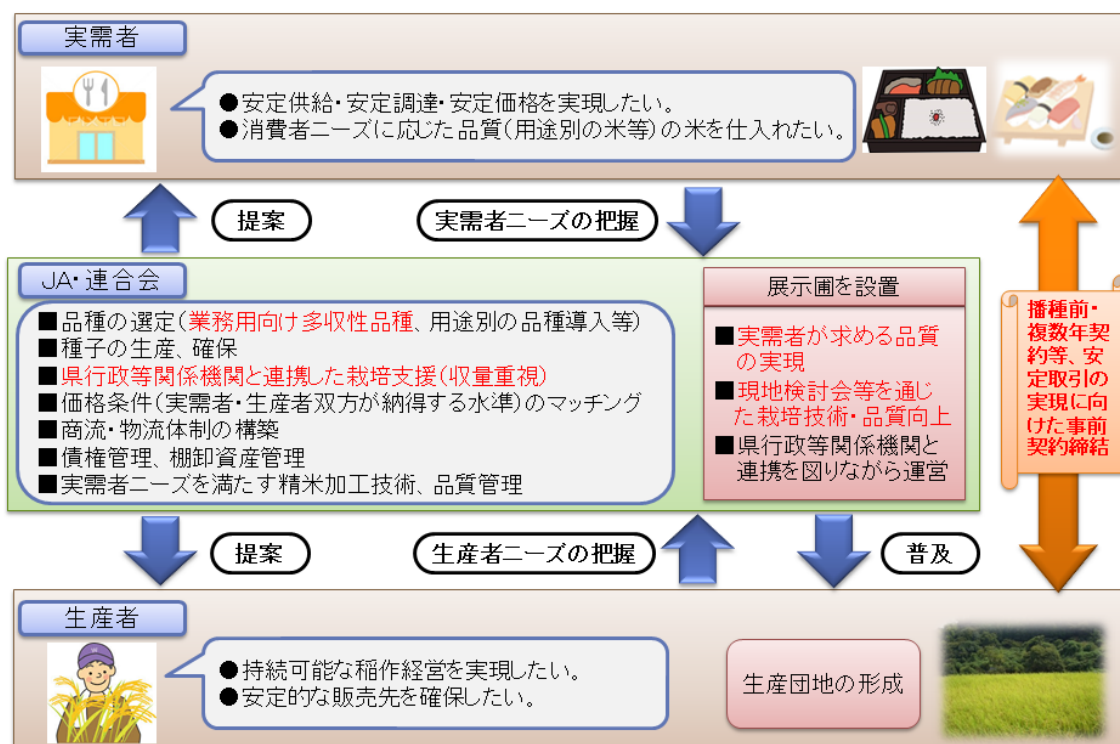
2. JAグループ広島による米穀事業の取り組みについて

- 「需要に応じた米の計画生産・計画販売」の観点から、確実に需要に結び付いた生産・販売体制を構築します。
- 原料玄米1袋から製造可能な精米工場（精米HACCP認定取得）を核とした地域ブランド商品（JAの結び米）の開発により販売力を強化します。
- 需要に応じた多収性品種等の導入・多収栽培技術の確立による生産数量の拡大を行うとともに、中食・外食実需者と連携した複数年契約栽培による生産から販売までの仕組みを構築します。
- JAと全農で「JA米販売専門チーム」を結成、マーケットにおけるJAグループの優位性を維持・向上させ、生産者手取りの最大化につながる取組みを行います。

3. 中食・外食実需者との長期契約取引拡大の取り組み

米の需要量は人口減少、少子高齢化等の影響により減少傾向にありますが、米の消費における中食・外食の占める割合は年々拡大しています。JA全農ひろしまではJAの結び米などの地域ブランド米のみならず、業務用米の需要に応じた生産・販売を複数年契約の導入とともに拡大してまいります。

○取り組みイメージ



4. ひろしま米の広告宣伝の取り組み

JAグループ広島では、ひろしま米のPR、ひろしま米商品の販売拡大を図るため、「JAお米のアンバサダー」をPR大使として様々な取り組みを行っています。

農業体験・産地交流会



テレビ (パブリシティ)



食農マッチングフェア



恋の予感×STU48コラボ



お問い合わせ先 JA 全農ひろしま 米穀総合課 082-431-5450

青果物 平成30年11月の販売経過

11月の西日本の天候は、月平均気温は平年並みで推移しました。また、高気圧に覆われる日が多く、降水量はかなり少なく、日照時間がかかなり多くなりました。昨年と比較すると一時的な冷え込みはあったものの、暖冬の様相で推移しました。

そのような中、広島県本部の青果物の取扱状況は、平成30年11月末累計の卸売市場仕向けについては、出荷重量9,131t（前年比94%）、販売金額3,301百万円（同100%）となりました。また、単価については361円（同106%）となり、累計ベースでは数量減、単価高での推移をしています。

■全農広島県本部の販売状況（平成30年4月～平成30年11月累計）

	数量		金額		単価	
	(t)	前年比	(千円)	前年比	(円/kg)	前年比
野菜合計	9,131	94%	3,301,212	100%	361	106%
トマト	2,502	95%	830,440	104%	331	109%
青ねぎ	1,217	99%	735,430	108%	604	108%
アスパラガス	304	103%	357,625	107%	1,176	104%
ほうれんそう	360	94%	205,608	87%	571	93%
小松菜	718	98%	194,852	95%	271	97%
きゅうり	616	106%	157,274	102%	255	97%
わけぎ	206	94%	128,141	90%	622	95%
だいこん	1,281	100%	114,945	104%	89	103%
ミニとまと	164	84%	106,562	98%	648	117%
くわい	55	95%	69,553	93%	1,260	99%
なす	202	70%	58,347	98%	288	141%
豌豆	67	114%	85,109	119%	3,389	88%
キャベツ	551	10%	36,295	105%	65	116%
青梗菜	105	113%	32,349	95%	308	84%
その他葉茎菜類	63	85%	27,897	75%	439	87%
白ねぎ	69	57%	25,100	60%	364	107%
ジャンボピーマン	76	84%	23,530	98%	311	116%
ばれいしょ	203	132%	19,933	72%	98	55%
南瓜	98	62%	18,377	78%	186	125%

※全農広島県本部の主要品目別市場出荷実績

◆ 11月単月の概況

【数量】

- キャベツ（252%）、豌豆（200%）、春菊（200%）、わけぎ（183%）、青梗菜（170%）、はくさい（161%）は前年度の単月を上回る出荷数量でした。 ※（ ）は前年度比。
- 葉茎菜類を中心に、10月以降の好天の後押しにより、順調に出荷されました。
- 反対に、さといも（67%）、白ねぎ（74%）、トマト（94%）は、前年単月比で減少しています。他には、慈姑は9月の曇天の影響があり小玉傾向で推移しました。※（ ）は前年度比。
- 11月単月の総出荷量は1,118tとなり、前年比133%と昨年を大きく上回りました。

【金額・単価】

- 11月単月で全体の平均単価は316円/kg（68%）となり、前月387円/kgよりも平均単価は下降しています。※（ ）は前年度比。
- 11月単月の出荷量は前年と比較し、279トン増加しました。内容としては葉茎菜野菜を中心に増加しましたが、キャベツ、大根など重量野菜が大幅に増加しました。また、単月の販売金額は354,101千円（前年比91%）で終了しました。

◆ 12月見通し

（1）入荷量の見通し（対象：広島市中央卸売市場）

- 12月の主要野菜（15品目）の入荷量は、平年を下回る水準と見込まれます。
- 「平年を上回る」と見込まれるのは、キャベツ、トマトの2品目。
- 「平年を下回る」と見込まれるのは、にんじん、青ねぎ、白ねぎ、レタス、きゅうり、ばれいしょ、さといも、たまねぎの8品目。
- 「平年並み」と見込まれるのは、だいこん、はくさい、ほうれんそう、なす、ピーマンの5品目。

（2）卸売価格の見通し（対象：広島市中央卸売市場）

- 12月の主要野菜（15品目）の卸売価格は、平年を下回る水準と見込まれます。
- 「平年を上回る」と見込まれるのは、青ねぎ、白ねぎ、たまねぎの3品目。
- 「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、レタス、きゅうり、ピーマン、さといもの8品目。
- 「平年並み」と見込まれるのは、にんじん、なす、トマト、ばれいしょの4品目。
- 品目別に入荷量、卸売価格の見通しは以下の通り。

品 目	12月の入荷量		12月の卸売価格		(参考) 前年12月の主産県シェア (%)
	平年比較	(参考) 前年比較	平年比較	(参考) 前月比較	
だ い こ ん	=	=	▼	◇	長崎(61) 鹿児島(15) 福岡(9) 宮崎(7)
に ん じ ん	▼	▼	=	▼	長崎(74) 熊本(16) 香川(5)
は く さ い	=	=	▼	◇	大分(38) 鹿児島(19) 熊本(13) 岡山(10)
キ ャ ベ ツ	◇	◇	▼	◇	愛知(33) 熊本(17) 福岡(13) 宮崎(12)
ほ う れ ん そ う	=	◇	▼	◇	広島(45) 福岡(39) 熊本(7)
青 ね ぎ	▼	▼	◇	◇	広島(58) 大分(8) 福岡(8) 高知(7)
白 ね ぎ	▼	=	◇	=	鳥取(53) 広島(25) 島根(10)
レ タ ス	▼	◇	▼	◇	長崎(40) 福岡(30) 香川(21)
き ゅ う り	▼	◇	▼	◇	宮崎(41) 熊本(14) 佐賀(13) 広島(10)
な す	=	◇	=	◇	福岡(58) 佐賀(21) 熊本(15)
トマト(ミトワを除く)	◇	◇	=	=	熊本(75) 島根(9) 宮崎(8)
ピ ー マ ン	=	◇	▼	◇	宮崎(36) 鹿児島(27) 輸入(20) 高知(14)
ば れ い し ょ	▼	▼	=	=	北海道(92)
さ と い も	▼	=	▼	=	愛媛(79) 宮崎(14)
た ま ね ぎ	▼	▼	◇	▼	北海道(97)
品 目 計	▼	=	▼	◇	

注：「平年」とは、直近5か年の平均値である。

※この資料の内容は平成30年12月3日現在で見込んだものであり、気象条件等により変動があり得ます。

※主要野菜の入荷量及び卸売価格の見通のコメント及びグラフは平成30年11月30日中四国農政局園芸特産課の発表内容による。

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：トン

品 目	9月上旬		9月中旬		9月下旬		10月上旬		10月中旬		10月下旬		11月上旬		11月中旬	
	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比
だいこん	329	96%	275	71%	399	102%	454	103%	481	118%	397	89%	472	121%	551	113%
にんじん	174	73%	163	68%	183	75%	195	73%	199	76%	179	62%	244	100%	300	127%
はくさい	231	107%	324	121%	314	99%	398	103%	521	116%	539	111%	557	134%	435	92%
キャベツ	475	86%	494	92%	493	91%	490	91%	597	104%	493	80%	478	90%	519	95%
ほうれんそう	14	99%	18	98%	20	82%	20	59%	35	93%	41	77%	50	110%	49	96%
青ねぎ	42	79%	54	96%	50	92%	51	98%	67	126%	53	98%	41	100%	43	101%
白ねぎ	27	74%	34	80%	29	59%	33	62%	42	71%	52	67%	64	94%	59	77%
レタス	234	92%	213	88%	206	86%	193	89%	205	94%	203	83%	195	93%	225	110%
きゅうり	206	114%	177	88%	141	73%	133	82%	145	94%	160	94%	155	109%	139	89%
なす	73	90%	58	68%	56	78%	45	67%	46	71%	44	70%	61	126%	57	111%
トマト(ミニトマトを除く)	117	104%	114	85%	90	87%	99	100%	111	108%	88	84%	79	89%	81	87%
ミニトマト	42	98%	42	111%	42	124%	38	101%	36	93%	42	101%	28	80%	42	105%
ピーマン	43	89%	45	99%	45	99%	36	77%	39	91%	38	78%	51	114%	46	99%
ばれいしょ	176	65%	220	81%	184	66%	301	110%	262	98%	216	73%	243	90%	219	77%
さといも	16	75%	27	73%	35	101%	19	54%	18	51%	23	59%	15	44%	17	52%
たまねぎ	306	67%	445	86%	399	74%	449	88%	515	106%	525	96%	374	84%	417	87%

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：円/kg

品 目	9月上旬		9月中旬		9月下旬		10月上旬		10月中旬		10月下旬		11月上旬		11月中旬	
	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比
だいこん	122	101%	142	111%	111	97%	123	119%	96	94%	101	85%	89	89%	47	56%
にんじん	185	115%	242	138%	235	138%	271	184%	247	165%	267	184%	251	161%	144	90%
はくさい	115	84%	116	80%	127	115%	160	171%	95	108%	88	92%	75	75%	67	71%
キャベツ	87	78%	91	68%	84	66%	107	90%	88	70%	118	95%	119	93%	75	70%
ほうれんそう	892	81%	963	102%	867	125%	892	132%	789	125%	628	108%	526	89%	433	83%
青ねぎ	751	117%	751	110%	757	116%	795	126%	729	114%	758	121%	709	108%	567	87%
白ねぎ	488	131%	592	148%	446	119%	558	154%	487	133%	454	123%	473	130%	419	114%
レタス	185	75%	215	77%	216	92%	241	106%	198	106%	175	100%	167	83%	108	60%
きゅうり	382	89%	409	115%	375	119%	455	157%	441	126%	425	103%	313	74%	242	67%
なす	331	96%	441	125%	416	133%	469	152%	527	161%	550	139%	465	107%	401	95%
トマト(ミニトマトを除く)	620	148%	451	105%	413	99%	477	110%	369	96%	407	108%	444	127%	392	122%
ミニトマト	1,145	137%	970	99%	829	85%	861	99%	880	113%	886	119%	899	127%	783	129%
ピーマン	537	117%	563	111%	509	112%	534	145%	614	158%	629	156%	511	117%	351	89%
ばれいしょ	150	100%	140	105%	124	102%	112	98%	113	102%	114	103%	112	103%	121	112%
さといも	282	78%	315	93%	285	100%	319	119%	319	117%	261	98%	251	101%	249	99%
たまねぎ	107	91%	111	108%	104	117%	102	120%	102	127%	102	125%	104	129%	108	129%

園芸関連イベント・広報活動情報



野菜の消費拡大をPRするため、
広島県産野菜の大陳列を店頭で展開



県内外の量販店にて旬な野菜と
産地PRを実施しました！



『おねぎフェア』の様子
青ねぎ・わけぎ・白ねぎのイベント



全農ひろしまの品目横断（野菜・お米・卵）
売場を設置しました！！

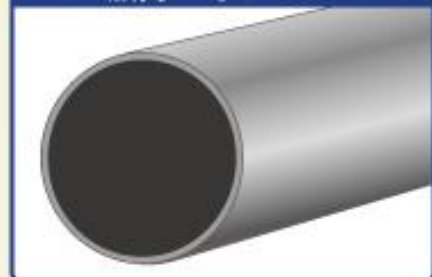
全農 風や雪にはもう負けない! ひろしま型 ハウス

安心
安全

特徴 パイプが強い!! 従来材ハウスのおよそ1.5倍

高強度鋼管の材質は従来より大幅に強度アップ! 引張強度540N/mm²以上(目標590N/mm²以上)

一般的パイプ1.2cm

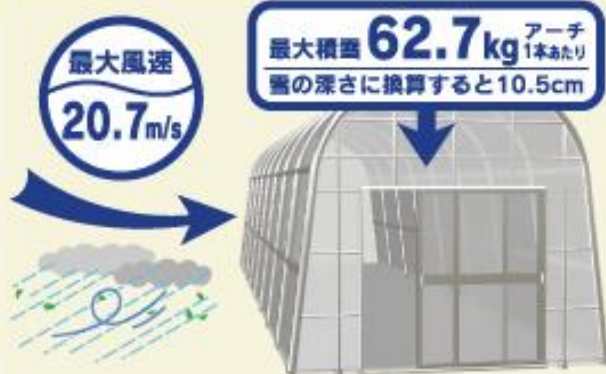


全農型パイプ1.6cm



★ハウスの強度を比較するために、例として間口5.4m×長さ30mのハウスに従来材と高強度鋼管を使用した場合、ハウスが耐える最大風速・最大積雪を計算しました(最大風速はハウス側面から風を想定)

従来材ハウス



高強度鋼管ハウス



※パイプサイズ: 25.4×1.2による計算結果

※これらの数字はあくまで計算結果であり実際のハウス強度を保証するものではありません。(強度計算…メーカーで実施)

※こちらの商品は、部材のみの販売になります。詳しい『全農ひろしま型ハウス』の取扱については JA 全農ひろしま園芸課までお問い合わせください。

平成30年産米の収量・品質からみた高温障害対策

広島県の今年度の予想収量は、525kg/10a(北部 523kg、南部 529kg)で、前年度に比べ 9kg の減少が見込まれるものの、作況指数 101 で平年並みとの結果となっています(中四国農政局、10月15日現在)。

しかし、一方で例年に比べ収量がとれていないという声もお聞きます。そこで、今年度の気象条件や圃場条件等から考えられる生育への影響やその対策について述べます。

(1) 今年度の気象状況と生育、収量への影響

今年度の気温や降水量は図1のとおりであり、ポイントを以下にまとめます。

- ① 6月中旬の低温により、茎数がやや少なく、全もみ数の減少につながりました。
- ② 7月豪雨以後は、8月末までまとまった降雨もなく高温に推移しました。水不足による千粒重や収量の低下が見られ、今年は、水管理による収量差が大きく出た年であったと考えられます((2)に詳細を記す)。
また、高温・多照条件で蒸散量、呼吸作用 が増加し稲体の消耗も激しく、一発肥料では肥効の前倒しもあったと考えられます。特に地力の低い圃場では後期窒素不足や登熟初期の高温条件による高温障害、収量低下も考えられます((3)に詳細を記す)。
- ③ 水が確保できたところでは早生品種は「登熟」はやや良いと見込まれます。
- ④ 9月中は降水量が多く、早生品種では収穫作業の遅れ、中生品種は登熟期の日照不足による千粒重の低下が見られます。

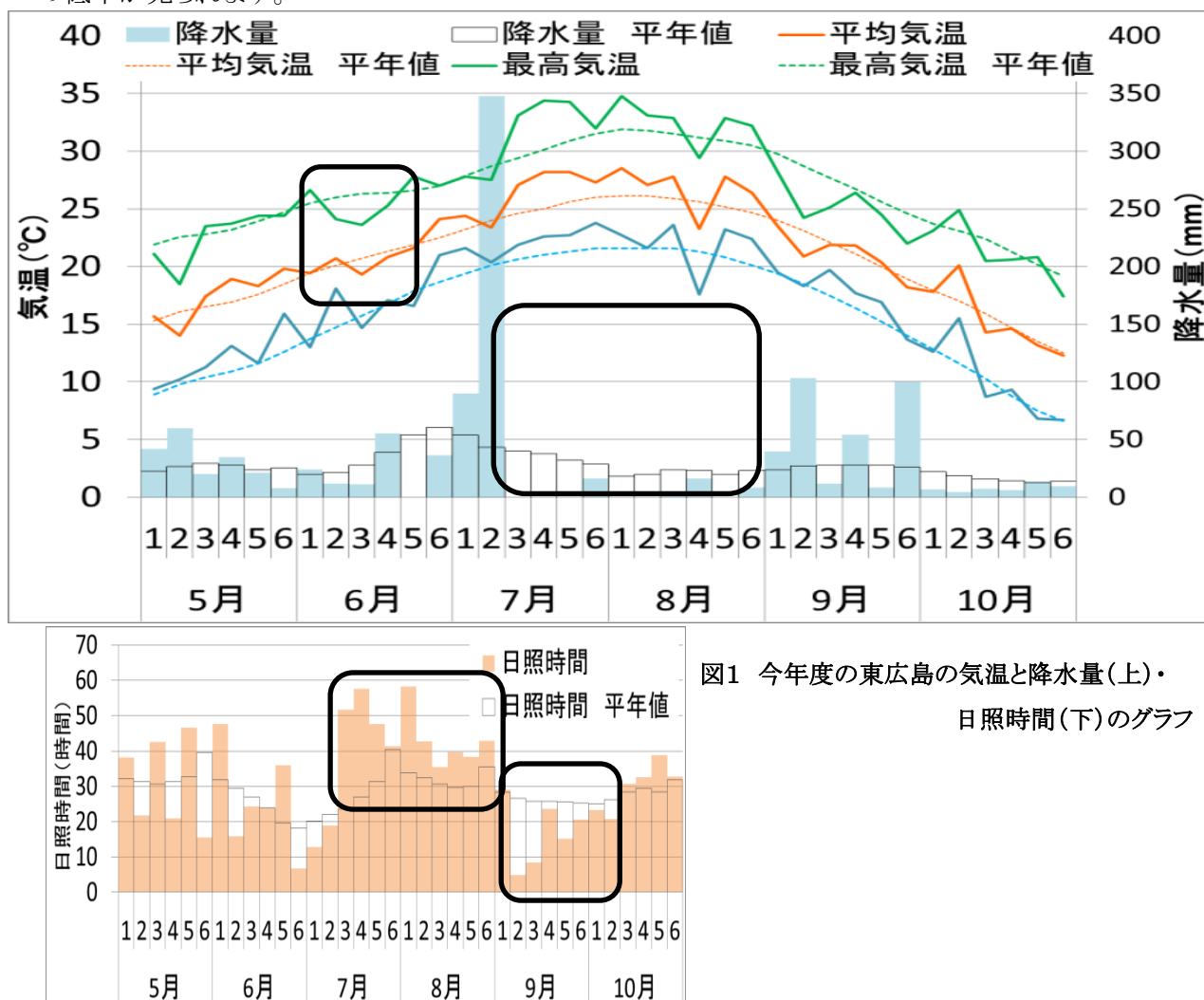


図1 今年度の東広島県の気温と降水量(上)・日照時間(下)のグラフ

◎前述の要因等により、表1のとおり、早生品種のコシヒカリ・あきさかりについては、昨年度より籾重が少なく、千粒重が小さいため収量が低い傾向、中生品種についても、千粒重は昨年より小さく、屑米が多い傾向が見られます。

表1 平成 29、30 年度 広島県内の収量調査結果(JA全農ひろしま調べによる株刈調査の 10a 換算値)

年度	品種	サンプル数	全重(kg)	わら重(kg)	籾重(kg)	籾摺歩合	粗玄米重(kg)	屑米重(kg)	精玄米重(kg)	千粒重(g)
H29	コシヒカリ	69	1,545	722	823	0.79	653	27	626	23.1
H30		83	1,363	658	705	0.80	562	17	545	22.5
H29	あきさかり	17	1,795	876	919	0.79	719	40	679	22.8
H30		29	1,727	842	885	0.80	699	41	658	21.9
H29	ヒノヒカリ	31	1,999	1,278	745	0.78	587	28	559	22.9
H30		44	2,056	1,224	835	0.80	661	49	618	22.7
H29	恋の予感	53	2,790	1,936	854	0.75	655	19	632	23.2
H30		58	2,104	1,349	771	0.81	620	31	589	22.4

(2) 生育ステージ別の水不足による影響

7月豪雨以後、特に土砂災害等で幼穂形成期～出穂期頃まで十分な入水ができなかった圃場や強い中干し状態が続いた圃場、例年どおりの水管理でも降水量が少なかったため、知らぬ間に土壌が乾いていた圃場が多く見受けられました。

幼穂形成期以降は水分不足による籾の退化による減収を受けやすい時期です(図2)。この時期の水稻の生育収量に大きな影響を与えない最低の土壌水分状態は、「黒湿り状態(手で握れば土がだんご状となる程度)」であり、この状態に達したものについては灌水する必要があります。

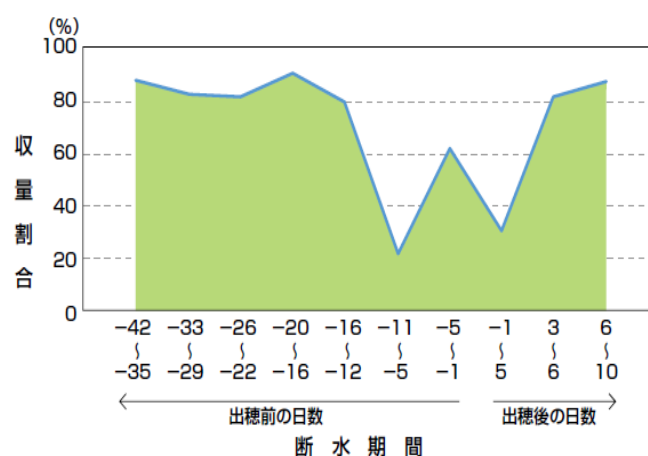


図2 稲の干害を受けやすい時期(高井 1974)

以下に幼穂形成期以降の生育時期別の水不足による生育への影響をまとめます。

生育ステージ	水不足による影響
幼穂形成期	枝梗や穎花の形成が妨げられ、1 穂籾数が減少する。
穂ばらみ期 (減数分裂期)	最も水不足の被害を受けやすい時期。 花粉の形成ができず、不受精籾が増加し、出穂しても一部は白穂になり大幅に減収する。
出穂開花期	穂の抽出が妨げられて、「ですくみ」となることが多く、また開花や受精が妨げられて、不稔となる。
登熟前期	出穂後 20 日頃までは急速に粒が発達するので、登熟歩合や千粒重が低下し、くず米が多くなる。

(3) 高温条件下での品質・収量へ影響

以下に高温条件下における生育への影響をまとめます。

- 生育初期: 分けつの促進や養分吸収の増加により、収量の増加に結びつきやすいですが、一方で、高温により地温が高くなると、地上部に対する根の発達小さくなるため、土壌下層からの水吸収や養分吸収が抑制されやすくなる傾向があります。また、土壌窒素の無機化が早くなり、生育後半の土壌窒素供給が減少しやすいなど窒素吸収パターンに影響を及ぼすことが知られています。
- 開花期: 収量に最も大きな影響を及ぼす時期。開花期頃および出穂前の気温が 34～35℃以上になると不稔粒の割合が増加します。
- 登熟期間中: 粒重の低下や外観品質の低下を引き起こします。その要因としては高温による登熟期間の短縮による積算有効日射量の低下、および高温によるデンプン合成代謝への影響が考えられます。日本のジャポニカ品種の収量にの登熟期の最適平均気温は約 21～24℃とされています(松島・角田 1957)。

特に、出穂後 20 日間の平均気温が 26～27℃以上で白未熟粒が多発し、高温障害による品質低下が多発した 2013 年は 27.9℃、今年も 26.7℃と、高温障害の目安となる 26℃以上よりいずれも高くなっています(表2、3、4)。

表2 広島県のコシヒカリの1等米比率の推移

1等米比率(%)	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
コシヒカリ	64.1	84.7	89.0	85.7	84.1

参照；農林水産省「米の検査結果」 ※2017 年は速報値

表3 東広島市における出穂後 20 日間の平均気温 (コシヒカリの出穂日を 7 月 31 日とした場合)

	出穂後20日間の平均気温(℃)		
	平年	2013年	2018年
コシヒカリ	25.9	27.9	26.7

表4 白未熟粒などの発生を助長する要因 (もつと使える施肥・土づくり Q&A「水稻の乳白米対策」(全農)を加筆)

	白未熟粒の種類					胴割粒
	乳白粒	心白粒	腹白粒	背白粒	基白粒	
気象要因	○登熟初中期の高温 (平均気温26～27℃以上) ○日照不足	○登熟初中期の高温		○登熟初中期の高温 (平均気温26～27℃以上)	○登熟初中期の高温 (平均気温26～27℃以上)	○登熟初期の高温 (平均最高気温33℃以上)
栽培要因	○籾数の過剰と倒伏		○登熟期間の窒素栄養状態の凋落(デンプン合成酵素活性の凋落、光合成産物の転流機能の低下などを引き起こす)			○登熟期間の窒素栄養状態の凋落

また、高温障害発生の栽培要因として、高温条件下での生育後半の土壌窒素供給の減少、一発肥料の肥効の前倒し等による登熟期間の窒素栄養状態の凋落があります。

一発肥料が普及するなかで、近年の異常気象では生育に応じた対応が困難になっており、水稻が吸収する窒素の約7割以上は地力窒素が占める(表5)ことから、特に今年のような高温条件下では堆肥や稲わら等の有機物投入による土づくりの有無が生育に与える影響は大きいと考えられます。

表5 水稻の地力窒素依存度と発現の特徴(岩手県農試)

土壌型	稲体総窒素吸収量 (kg/10a)	吸収窒素の由来割合		地力窒素の時期別吸収割合(%)		
		施肥(%)	地力(%)	初期	中期	後期
灰色低地土	12～16	20	80	17	67	16
多湿黒ボク土	12～16	32	68	25	48	27
褐色低地土	10～11	20	80	35	45	20

初期: 移植～7月上旬(穂首分化期頃)、中期: 7月上旬～出穂期、後期: 出穂期以降
速効性肥料を用いた全層基肥+追肥体系の試験であり、緩効性肥料及び側条施肥により施肥窒素の利用率が高まることで、施肥由来窒素割合が増加する可能性が高いと考えられる。

一発肥料であっても、減数分裂期頃に窒素2 kg/10a の追肥により、葉色を濃くさせることで、背白・基部未熟粒の発生の軽減や粒数の増加による収量向上効果も報告されています(山口県農林総合技術センター、ひとめぼれ・ヒノヒカリ)。追肥の省力技術として、(粒)硫安、い〜ね707「改」、(液)おてがるくん NK等を活用した流し込み施肥法もあります(ただし、一定量の水量が確保でき、漏水田は除きます)(図3)。



図3 流し込み施肥の様子

(4) 高温障害対策～来年にむけてケイ酸をたっぷり補給～

水稻はケイ酸を多く吸収する作物で、600kg/10a の玄米収量を得ていれば、水稻は10a 当たりケイ酸を120kg/10a も吸収します。そのため、土壌中の有効態ケイ酸の量が重要です。

米の品質とケイ酸資材の施用の関係を整理すると次のようになります。

- ① ケイ酸の施用は、稲の葉を直立させて受光体勢を良くして、光合成能を高める。また、耐倒伏性を高め、倒伏による光合成能の低下を避ける。
- ② 光合成能が高まり、乳白粒が減少(図4, 5)。
- ③ 光合成能が高まり、登熟歩合が高くなり、結果的に玄米タンパク濃度が低下し、食味向上します。



平成 25 年 東広島地区 乳白軽減調査
けい酸加里・中間追肥 40 kg/10a

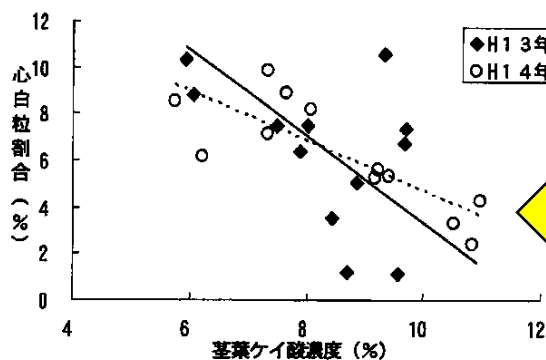


図4 成熟期茎葉ケイ酸濃度と心白粒割合
(富山県農技センター2003)

稲体にしっかりケイ酸を吸わせると、白未熟粒の発生率が低下！！

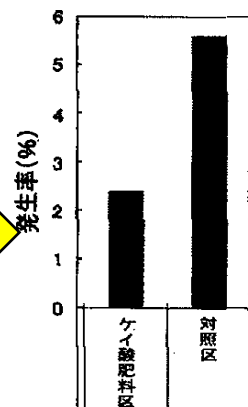


図5 高温登熟条件化の乳白粒の発生とケイ酸肥料の効果(土づくりとエコ農業 2011 参照)

夏場の高温による品質低下を防止・軽減させる基本技術としては、従来からの「ケイカル」、「ミネラルG」などを10a当り200kg程度(土壌や地域により施用量は異なる)継続的に施用しておき、異常気象時に備えておくことが重要です。散布時期としては、出来秋から春先までの間でこの期間であればケイ酸効果の違いはほとんどありません。

また、高温による障害を軽減する応急的な対策として、溶出の速度が速く溶出量も多い吸収効率の良いケイ酸質肥料を使用するという手段があり、けい酸加里プレミア 34やシリカサポート等がおすすめです。中間追肥が推奨施用時期ですが、基肥時でも効果は期待できます。

担い手に情報発信！JAグループ広島アグリサミットの開催結果

(1)アグリサミットの概要について

平成 30 年 11 月 7 日・8 日の 2 日間で、JA 西日本営農技術センターにて 3 回目となる「JA グループ広島担い手アグリサミット」を開催しました。

JA グループ広島全体として、担い手経営体、中核的担い手に対して「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けた取り組みを総合的に伝えることを目的として開催し、2 日間で 502 名の担い手および関係者にご来場いただきました。



(2)内容

①実演会

JA西日本営農技術センターの圃場を活用して、小型無人航空機ドローン、白ねぎ収穫機、排水対策農業機械等の実演を行いました。広島県では初めてとなる全自動飛行の最新型ドローンの実演に注目が集まりました。

②セミナー

栽培技術、コスト低減、農業ICT、農業機械等の内容について 20 分～30 分のセミナーを実施しました。特に「水稲高温障害対策」「土づくりによる収量向上」「問題となる水田雑草の防除体系」等のセミナーは多くの担い手が受講されました。



共同購入トラクター

① 示ブースでの情報発信

トータル生産コスト低減、新しい栽培技術、農業ICT、鳥獣害対策等に関する各分野の取り組みについて 28 個の展示ブースで情報発信を行いました。今回から内容を拡充した農業ICTについては、来場された担い手の関心も高く、専用ブースは大盛況でした。



全自動飛行ドローン実演



水田雑草対策セミナー



鳥獣害対策ブース



排水対策農機実演



肥料農薬ブース



農業 ICT ブース

(3)来場された担い手の声

来場された担い手からは、「ドローン実演、ICT 等農業のこれからの可能性を勉強できてよかった」「展示ブースで色々質問できて参考になった」「今後も続けてほしい」といった声を多数いただきました。

お問い合わせ先 JA 全農ひろしま 肥料農薬課 082-846-4705

農業機械情報

農業機械大展示会を開催します！

県下3会場で農業機械大展示会を開催します。最新モデルの機械のご提案や安全使用に関する啓発活動など内容もりだくさんで、皆様のお越しをお待ちしております。

会場名	開催日時	場所
入野会場	平成31年2月14日(木)9:00~15:00	JA全農ひろしま JA西日本営農技術センター (東広島市河内町入野11631-13)
	平成31年2月15日(金)9:00~15:00	
	平成31年2月16日(土)9:00~14:00	
福山会場	平成31年2月23日(土)9:30~16:00	広島県立ふくやま産業交流館(ビッグ・ローズ) (福山市御幸町上岩成正戸476-5)
	平成31年2月24日(日)9:30~15:00	
世羅会場	平成31年3月1日(金)9:00~16:00	世羅大豊農園 (世羅郡世羅町京丸10804-1)
	平成31年3月2日(土)9:00~15:00	



共同購入トラクター「YT357」も展示！

前号でご案内しました共同購入トラクターが各会場に登場！ぜひこの機会に実機をおたしかめください。

詳細は、お近くのJA農機センターまでお問合せ下さい。